

広報 **ぬくもり** 第1号

住んでみたい四絡  
住んでよかった四絡  
～認めあい支えあう  
やさしさあふれるまちづくり～

◆発行者 四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会(四絡コミュニティセンター内)



認めあい支えあう やさしさあふれるまちづくり

四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会  
会長 安達清志

私たちの回りには児童虐待やいじめ、様々なハラスメント、インターネット上での誹謗中傷や悪質な書き込みなどの人権問題が存在しています。最近では新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷や差別もみられました。こうした人権問題を解決するためには、私たち一人ひとりが人権について正しい認識と理解を深めていくことが必要です。

四絡地区は令和5・6年度の2年間「出雲市同和教育研究指定事業」を受けることになりました。四絡地区が指定を受けるのは20年ぶりです。事業の目的は「部落差別をはじめとするあらゆる差別を無くし、全ての人々の人権が尊重される社会を作るために、真に明るく住みよい民主的な社会の創造をめざした地域ぐるみの同和教育を推進すること」です。

四絡地区はこの事業を通して、住民の皆さまにこれまで以上に同和教育に関心を持っていただきたいと考えました。そこでこの事業を進めるため、昨年7月に自治協会、コミュニティセンター、保育園や幼稚園、小中学校、各種団体が連携して「四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会」を立ちあげ、11月には、「人権に関する住民意識調査」を実施しました。調査にあたっては自治協会、自治委員の皆さまに大変お世話になりました。また県及び市の国際交流担当課には英語や中国語、ポルトガル語への翻訳をしていただき、派遣会社の方にはブラジル国籍の方への配布のお手伝いをいただきました。調査を支えてくださった全ての皆さまに心

から感謝申し上げます。ありがとうございました。

当委員会では、今回の調査結果とこれまでの四絡地区の取組を基に、活動テーマを「住んでみたい四絡 住んでよかった四絡」とし、サブテーマを「認めあい支えあう やさしさあふれるまちづくり」としました。またこの広報誌の愛称を応募の中から選ばせていただいた「ぬくもり」としました。

四絡地区の皆さまには、どうかこの研究指定事業の趣旨をご理解いただき、「住んでみたい四絡 住んでよかった四絡」の実現に向けて、いっしょに学び、気づき、考え、行動していただきたいと思っています。そして共に「やさしさあふれるまちづくり」にとり組んでいただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



人権に関するアンケートへの  
ご協力 ありがとうございます



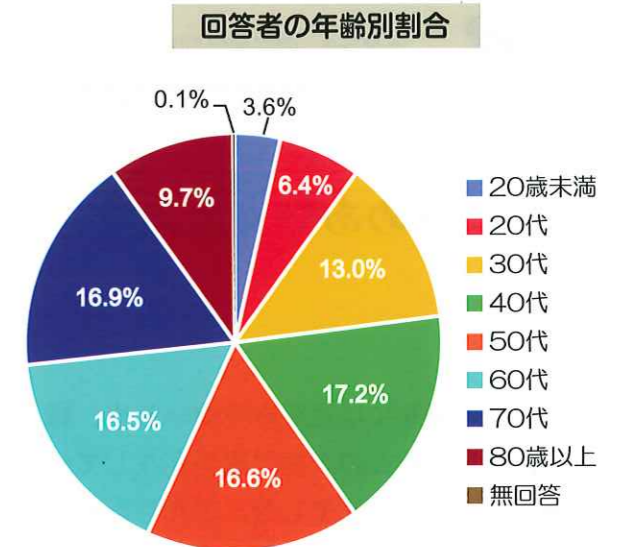
四絡では、今年4月の出雲市同和教育研究指定事業のスタートにあたり、昨年11月に意識調査(人権に関するアンケート)を行いました。ご協力をいただいた皆さん、ありがとうございました。アンケートの概要や結果についてQ&Aの形でまとめてみました。

Q1 このアンケートの目的は何ですか？

A1 令和5年4月から「認めあい支えあう やさしさあふれるまちづくり」をめざして研修を始めることとなります。その前に四絡の「人権」と関わる課題を明らかにするためです。

Q2 調査に参加してくださったのはどのような方ですか？ 年齢別の割合はどのようですか？

A2 自治協会加入世帯、未加入世帯、保・幼・小中学校の保護者と教職員、四絡在住の外国人の方にご協力いただきました。配布数は3934で回答数は1557でした。(1世帯から複数の回答も可能としました)  
年齢別の割合については、右のグラフのとおりです。どの年代からもバランスよく回答をいただいたことがわかります。



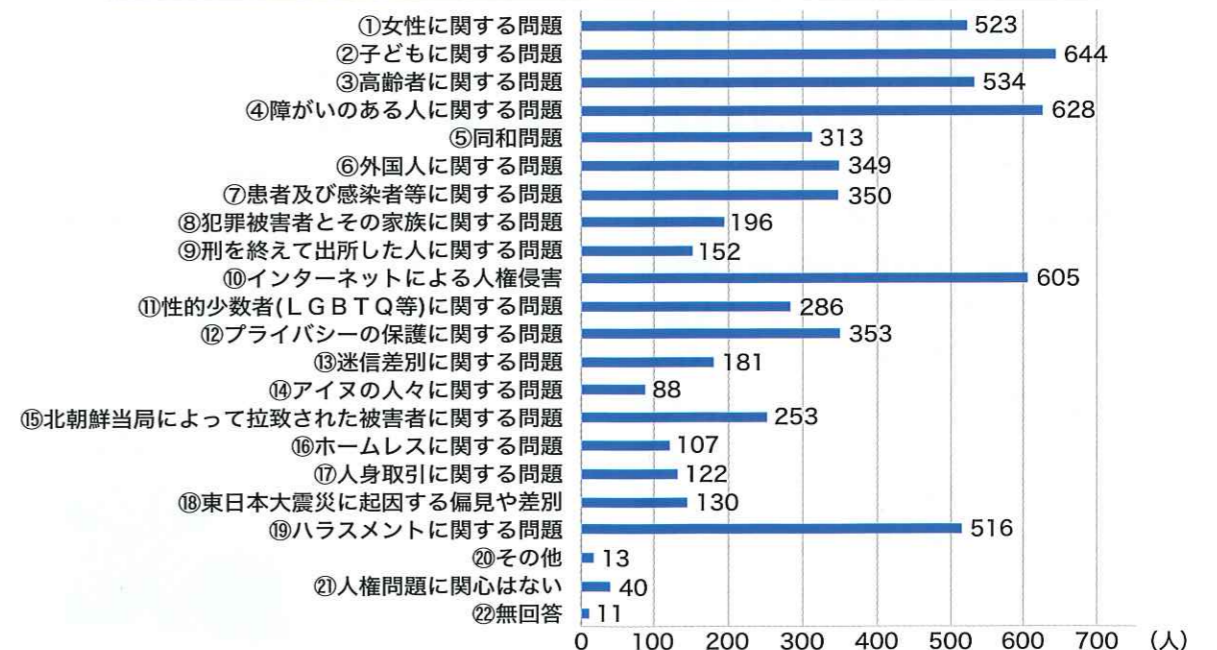
Q3 アンケートの内容は、どのようなものですか？

A3 人権に関するアンケート(四絡版)は、出雲市の「人権問題に関する市民意識調査」(令和3年)の内容を参考にした20問です。11の人権課題と人権が尊重される社会に向けての取組について聞く内容としました。  
※人権に関するアンケート(外国人向け)は、別内容としていますが、詳しくは次号でお伝えします。

Q4 四絡では、どのような人権問題に関心が高いですか？

A4 アンケートの問2の結果は、下のグラフのとおりでした。

問2 あなたは、現在どんな人権問題に関心をもっていますか？(複数選択)



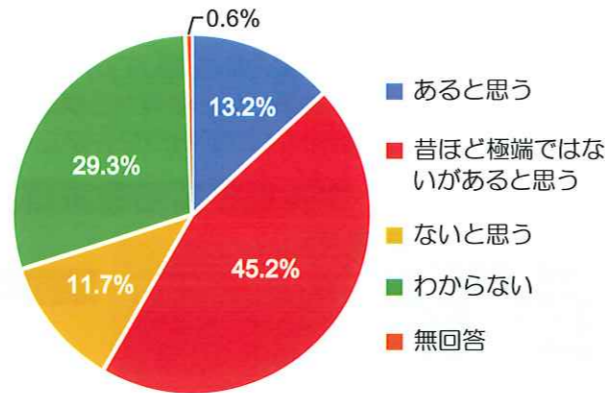


「子ども」「障がいのある人」「インターネット」「高齢者」「女性」「ハラスメント」に関する問題に関心が高いことがわかります。(数の多い順に1~6位まで) 市の調査と比べると「子どもに関する問題」に対する関心が高くなっています。(市より15.8ポイント高い)

Q5 出雲市同和教育研究指定事業は、「部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすこと」が目的と聞いています。四絡では、どのくらいの方が、「同和教育(部落差別)は現在もある」と考えておられますか?

A5 アンケートの問7で、そのことについて聞いています。結果は右のグラフの通りです。
現在でも「同和教育(部落差別)はある」と考えている人(グラフの青と赤の部分)が58.4%でした。別の年代別集計では、「わからない」と答えた人が30~40代に多く見られました。(38.2%)

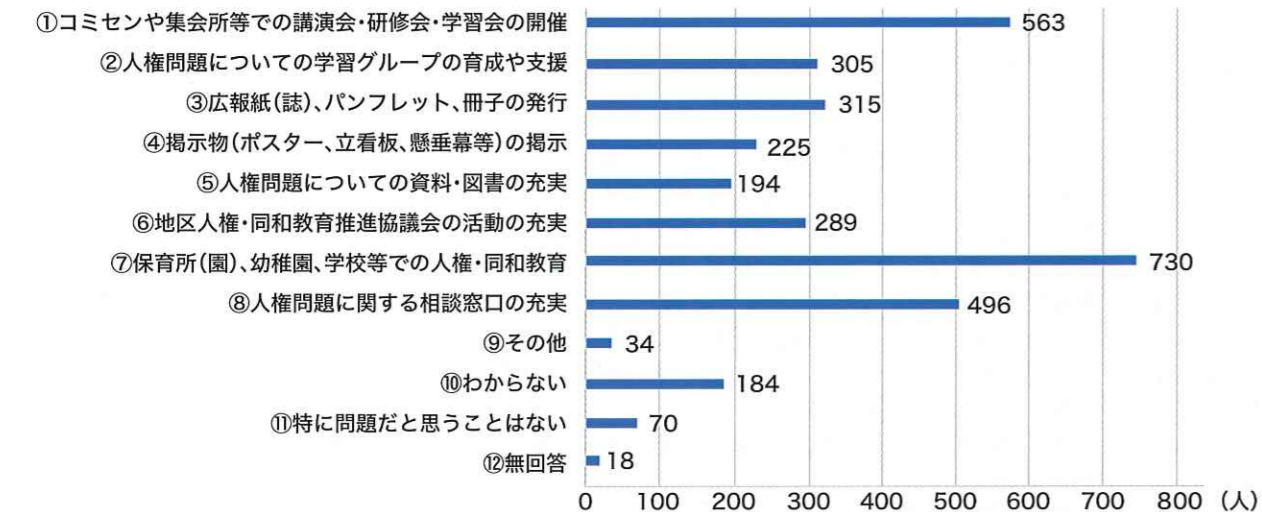
問7 現在、同和教育(部落差別)はあると思いますか?



Q6 四絡では、人権が尊重される社会を実現するために、特にどのような取組が必要だと考えられていますか?

A6 下のグラフのように、保・幼・学校等での人権・同和教育、コミセン等での研修会、相談窓口の充実(数の多い順に1~3位まで)に期待が高いことがわかります。

問19 人権が尊重される社会を実現するために、地域として、特にどのような取組が必要だと思いますか?(複数選択)



Q7 このアンケート結果は、これからの活動にどのように活かされますか?

A7 四絡では、これから同和教育をはじめとするさまざまな人権課題をとりあげながら研修を進めていきます。このアンケート結果は、研修内容や研修方法を工夫するため、また、さまざまな啓発活動を行うための重要な資料となります。

Q8 このアンケートの詳しい結果が知りたいときは、どうしたらいいですか?

A8 四絡コミュニティセンターのホームページのトップページからご覧になれるようにします。(7月1日からご覧になれます)

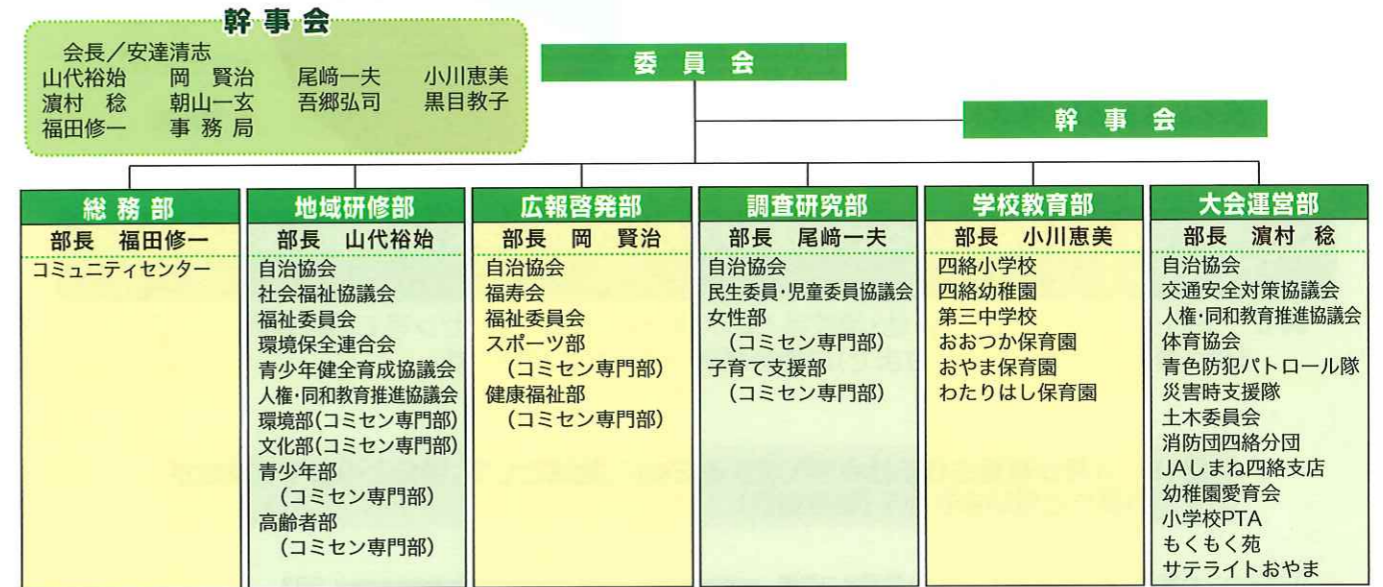
※次回は、人権に関するアンケート(外国人向け)の結果についてお知らせします。

~認めあい支えあう やさしさあふれるまちづくり~

四絡地区は令和5・6年度の2年間、出雲市同和教育研究指定事業を受け事業にとり組んでいきます。この事業の指針となる活動テーマを「住んでみたい四絡 住んでよかった四絡」とし、個性や価値観の違いを認めあい、みんなで支えあうやさしい気持ちのあふれる、明るく住みよいまちづくりをめざし啓発活動を推進していきます。

この事業を計画的、効果的に推進していくための組織として、自治協会、コミュニティセンター、保育園、幼稚園、小学校、中学校、各種団体の委員から構成された、「総務部」「地域研修部」「広報啓発部」「調査研究部」「学校教育部」「大会運営部」の六つの専門部を設立しました。

四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会組織図



今年度は、人権について考える講演会を11回、専門部ではDVD視聴による研修を計画しています。

- 4月14日(金) 環境部(コミセン専門部)研修「中学生人権作文より"ウイルスよりも怖いもの"」
4月18日(火) 四絡地区同和教育研究指定事業推進委員総会
4月24日(月) 青少年部(コミセン専門部)研修「中学生人権作文より"立ち止まる"」
5月11日(木) 健康福祉部(コミセン専門部)研修「中学生人権作文より"ウイルスよりも怖いもの"」
5月14日(日) 事業推進委員研修「みんなが幸せに暮らすために!"親愛なる、あなたへ"」講師:園山哲男さん
5月21日(日) スポーツ部(コミセン専門部)研修「中学生人権作文より"ウイルスよりも怖いもの"」
6月25日(日) 小山地区研修「みんなが幸せに暮らすために!"親愛なる、あなたへ"」講師:園山哲男さん
6月26日(月) 広報「ぬくもり」第1号発行
7月23日(日) 大塚・渡橋地区研修「みんなが幸せに暮らすために!"親愛なる、あなたへ"」講師:園山哲男さん
7月26日(水) 福寿会研修
8月27日(日) 矢野・姫原地区研修「みんなが幸せに暮らすために!"親愛なる、あなたへ"」講師:園山哲男さん
9月27日(水) 福寿会研修
(未定) 出東地区研究発表
( ) 長浜地区研究発表
( ) 四絡地区中間報告発表会
○ 幹事会:毎月第2水曜日開催
○ コミセン専門部(子育て支援部、女性部、文化部)研修日程未定



広報啓発部からのお知らせとお願い

広報の愛称は、応募作品33点の中から杉原周太様(渡橋町)と濱村哲也様(小山町)の「ぬくもり」が選ばれました。ご応募いただいた皆さま、ありがとうございました。広報誌は年3回発行の予定です。皆さまのご意見やご感想をお寄せください。(事務局 TEL 21-0369 / FAX 21-0370 mail: yotsugane-cc@local.city.izumo.shimane.jp)